

第4回 練馬区商工業振興懇談会議事概要

日時：平成22年1月25日(月)午前10時00分～午後12時10分

場所：練馬区役所本庁舎5階 庁議室

《議事次第》

- 1 開会
- 2 議事
 - (1) アンケート調査報告
 - 資料1 - 1 アンケート調査報告(区民意識調査、事業所調査)
 - 1 - 2 アンケート調査報告(商業実態調査)
 - (2) 提言書(案)骨子の確認
 - 資料2 - 1 練馬区商工業振興懇談会提言書骨子案の構成
 - 資料2 - 2 練馬区商工業振興懇談会提言書骨子案
 - 資料2 - 3 グランドデザインのイメージ図
- 3 懇談会の進め方(案)について
 - 資料3 商工業振興計画策定に向けたスケジュール(案)
- 4 その他
 - (1) 第3回懇談会会議録(案)について
 - 資料4 第3回練馬区商工業振興懇談会議事概要(案)
 - (2) 第5回商工業振興懇談会は、2月23日(火)午後6時30分から区役所5階庁議室で開催

《出席者(五十音順)》

井戸勤、岩橋栄子、大島いずみ、奥津稔、高橋徳行、本田八十夫、元屋恵子、山中伸彦、横山正二

《傍聴者》

なし

1 開会

座長

- ・ 定刻になったので第4回練馬区商工業振興懇談会を始める。委員の出欠について事務局より報告願う。

事務局

- ・ 1名から欠席連絡有、現在出席者8名である。(後に1名遅れて加わり、全部で9名の出席となった)

2 議事(1) アンケート調査結果報告

事務局

資料1 - 1 説明後、質疑・応答

委員

- ・ 4ページの ホームページの開設状況 についての回答はどのような対象者が答えているのか。商店か。その隣の インターネットの利用状況 についても、インターネットやホームページの利用状況の具体的な内容は分からないのか。

事務局

- ・ 4ページの資料は、同ページの上にある事業所概要の円グラフに示されているように、商店以外の事業所の回答である。また、インターネット利用状況の内訳は、事業所の利用状況ではないが、区民の買物実態調査として、2ページの左上の図に、区民がインターネット利用で買物をする割合が黄色で示されている。おしゃれ着で7.4%、家具・家電9.7%、書籍・文具についても9.3%の利用があり、区民にインターネット利用の行動形態が広まっていることが明らかになった。

委員

- ・ 練馬に限らず、商工業が衰退していることが、このアンケートで明らかになっているように思う。今後のあるべき方向性を示していかなければならないと思う。神戸は働いていない女性の割合が日本一高いそうだが、そういったところに文化の高さがあるのではないかと。東京では吉祥寺が憧れの場所となっているが、練馬も石神井公園や大泉という場所を有しているのだから、吉祥寺の井の頭公園のように、練馬の魅力につながることはできるのではないかと。何かここから発信していく必要性を感じている。

委員

- ・ 今回の結果に年齢別や職業別のクロス集計をしたデータが欲しい。例えば、4ページの「経営上の問題」についても、業種別に分ければ、今後の提言を行うに当たって、より具体的な問題点の把握ができるので、クロス集計のデータがほしい。また例えば「おしゃれ着を大型店で購入するのは30代が多い」という情報を抽出できないだろうか。また、3ページの「区内店舗の施設状況満足度」について、施設状況とは何を指しているのか。施設内部の美観や状態なのか、施設の立地などの環境なのか。それと、「インターネットの利用状況」についての詳細が知りたい。最後になるが、商工業振興計画について7割が知らないという実態は問題であると思う。

座長

- ・ クロス集計については、現在が中間報告であることをご理解いただきたい。今後、要望に応えられる形で報告したい。また施設状況の定義については、回答項目を見ると、「立地」「駐車スペース」「老朽化」「清潔感」「広さ」とあることから、内部の美観や環境など全てを包括していることが分かる。商工業振興計画の認知度については、計画そのものは知られていないかもしれないが、個々の政策レベルに落とし込まれたものは知られているのではないかとやや楽観的に推測している。

事務局

- ・ インターネットの利用状況については、その内容を「メールやファイルの送信」「自社業務・製品等の紹介、PR」等9項目にわたって詳細に聞いているので、もう少し詳しいものが出せる。

委員

- ・ 2ページの資料は金額が考慮に入っていないデータなので、金額が含まれたデータであれば、もっと区外の消費部分の割合が多くなると推測される。実際の流出額がどの程度になるのかという点に興味があるので、もし分かれば知りたい。また、5ページの「新規事業への事業展開」において、取り組んだと回答している14%の事業所が具体的にどのような取り組みを行ったのか知りたい。私の意見としては、単純に数に依存するような商売は今後困難であると考えている。新たな事業展開の方法を考えていくことが重要である。また、限られた数の中でリピーターをいかに獲得するかという方策について考えることも、今後の商業発展に不可欠であろう。最後に、気になった点として、3ページの「店舗を利用する理由」のところ、中小の小売店に対して「信用ができる」という項目の回答割合が14%というのは低いのではないかと。

事務局

- ・ 今回の調査では金額についての調査は行っていない。新規事業への取組が多い業種は

農林水産業と情報通信業であり、具体例は今後アンケートの自由記述部分の整理が進めば判明する。逆に取組の少ない業種は不動産業である。業態としては、個人経営で少なくなっている。

委員

- ・ JA の新規事業の取組として、直売所の例を挙げたい。板橋地区から順次、大泉地区に農作物の直売所を設置した。そこでは信用を得るために店に農産物出荷者の氏名と顔写真を載せている。リピーターを増やすためにはポイントカードが効果的と考える。ただしポイントカードも、客数の少ない時期はポイント 2 倍、記念日でポイントアップなど、工夫していく必要があると思う。

事務局

資料 1 - 2 説明後、質疑・応答

委員

- ・ 行政側への提案として、練馬区役所の空きスペースに高齢者用品を販売する個店を出店することは可能か。

事務局

- ・ 現在高齢者向け物品の展示会を区庁舎 1 階のアトリウムで実施している。これを販売に展開していくことも方向性としては考えられる。

委員

- ・ 農業においても、農地法が改正され、農地について所有から利用する時代情勢にシフトしている。商業についても同じことが言えるのでは。土地持ちが多く、40~50 代の人々が活躍しにくい状況にあるので、これらの世代の意欲向上が必要だし、それなしには商店街は衰退する一方ではないか。そのような意見交換、意見醸成の場を作るべきでは。

委員

- ・ アンケート結果の全体の傾向だけに着目するだけでなく、少数であっても状況の良い事業所の事例から学ぶことも大切なのではないか。アンケート結果では、活発な商店街が 11.2% 存在しており、商店街の今後の見通しでも 9.1% はかなり発展が見込めると言っている事実があるのだから、その部分を詳細に見ていく必要がある。資料 1 - 1 の事業所で売上高 20% 増加を達成している事業所が 1.1% あり、これは実数としては 14 店舗程度だが、こういった成功事例を詳細に検討していくことで、成功の要因や売上げ拡大の方策、ひいては発展のために目指すべき方向のヒントを得ることができ

るのではないか。

座長

- ・ 確かに全てを同じ重みで見るとはなく、伸びているところや元気なところのプロファイルを整理したり、商店街であれば実際に足を運んでみることで今後の方向性が見えることもある。可能であればこれらを最終報告に盛り込んでみたい。

委員

- ・ 4ページの右下、商店街にとって大切になりそうなキーワードで挙げられている「地域交流」について、言葉の定義やイメージをもっと明確にすべきでは。それぞれがイメージしているものが違うままアンケートへの回答がなされたのではないか。区の担当者のイメージを明確にすることと、回答者がそれを正確に理解したうえで回答したのか確認したい。

事務局

- ・ 地域交流は確かに多義的だが、ここでは地域コミュニティという言葉に代替できるような、地域の交流の場所というイメージである。それは、町内会や消防団など、地域活動に力を入れている商店街会長の回答で「地域交流」の回答率が特に高いことから裏付けられていると思う。地域の一体的なコミュニティ活動の一環として商店街活動を捉えていきたいというイメージを持って回答がなされていると推測される。

委員

- ・ コミュニティづくりの中身はどんなものか。地域のイベント、祭りや夕市など考えているのか。

事務局

- ・ もちろんイベントや祭りもあるが、その一方で学校に通う子どもの見守りや高齢者の居場所を商店街の中で作れないかといった、地域に役立つ機能や役割を商店街側は認識している。

委員

- ・ 成長戦略を商店主が持っていないことや、現状維持、あきらめの風潮が蔓延していることが問題だし、この意識が変わらないといくらこちらが提案しても難しい。

委員

- ・ 停滞しているところの潜在意識を呼び起こすためには成功事例などを共有する場を

区役所側が示す必要があると私も思う。

委員

- ・ 石神井公園駅の高架化が予定されており、24年にはみなとみらいまで一直線につながる。これほどの資本投下をしているのに、周辺の商店街や店主には意識改革が見られない。石神井公園周辺は特に、公園という金で買えない資源を有しているのに客を呼べないということではいけないと思う。

座長

- ・ 成功例や、これから元になるものに着目する必要があるというのは、今後意見をまとめるときに持っていなければならない視点であろう。

3 議事(2) 提言書(案)骨子の確認

商工業振興計画策定支援業者

資料2-1~3について説明

委員

- ・ 商工業者は特別な人を除いて、閉塞感が強く、今後どうしていいか方針が見えていないし、分からなくて困っているのだから、我々が理想を発信し、共鳴してもらうことが大事ではないか。ランドデザインに具体性を持たせ、そこに向かって努力することができるようなものが必要では。

座長

- ・ ランドデザインの中に、具体的かつ、商工業者の方が自分が進んでいく方向性をイメージできるようなものを盛り込んで、というご意見ですね。

委員

- ・ 「区の特徴と現状」の みどり、自然の豊かさ の中に農地を入れてもらいたい。農地があることが練馬の特徴なので、ぜひあげてほしい。また先ほど出た地域交流については、商店街、個店、消費者の3者それぞれが重視しているのであるから、ランドデザインの中に入れても良いくらい大きな課題なのではないかと思う。

委員

- ・ 安全なまちという点をもっとアピールできないか。警視庁のホームページで地域別の犯罪率をチェックする人が増えてきているらしい。安心安全の価値はこれまで以上に高

まっている。安全にお金を払ってもいいと思う人がいるこの時代ならば、練馬の住環境の良さをもっとアピールできるのではないか。また、課題のまとめ方について、これまで箇条書きの羅列になってしまっているが、もう少し共通項をまとめてカテゴライズして、大きなまとまりとして提示するなど、課題としての提示の仕方を考えて欲しい。

委員

- ・ 現在出ているランドデザインも一律でなく、優先順位を持たせることが必要なのでは。また、今の文言では具体性に欠けるので、もっと具体性を持たせるべきであろう。

座長

- ・ 内容や狙いは良いと思うが、確かにこの文言だけでは意図することが伝わりにくいかもしれない。例えば「まちの魅力を引き出し、にぎわいをもたらす産業活動の支援」について、説明を読めば特徴ある産業を生かして練馬らしさを打ち出していこうということだと分かるが、ランドデザインの一文だけからは上手くそこまで伝わらないような気がする。「区民活動の活性化に寄与する産業活動の支援」についても、私は地域コミュニティと共に育つ産業活動の支援、というイメージであるが、果たして伝わるだろうか。

商工業振興計画策定支援業者

- ・ 提言書のたたき台を作成する際に、見直しが必要な部分の文言については、調整することを考えている。もちろんこの場で文言を出していただきたいが、特にランドデザインの数、内容などについてもご意見をいただければと思う。

委員

- ・ アニメについて、最近良く聞かし、ランドデザインにも入っているが、我々にとってアニメはどんな影響があるのか、ご教示願う。

事務局

- ・ 区のアニメ産業の方針についてお答えする。練馬区は日本アニメ発祥の地である。今現在も90社を超えるアニメ関連の事業所が存在しており、日本最大のアニメ産業集積地となっている。また一方、国家単位でも、食やファッションと並ぶジャパンポップカルチャーの一要素としてアニメを重点的に投資していく方針である。アニメ関連産業について練馬区が重点的に政策展開することは、国の産業政策にも合致していると考えている。また、アニメ産業自体は、区内で300億円程度の生産額の産業であるものの、練馬区のイメージアップや、練馬区の特産物や農産物とのタイアップによ

る商品化の可能性など、多様な展開が期待できるものとして、アニメ文化を練馬の柱にすべく、昨年1月にアニメに関する全体計画を区で整備している。

委員

- ・ 練馬全体のことを考えると、区境に緑のアーチを作ることなどを一つの案として提案させてもらう。アーチにアニメを品良く表現すればよい。アーチには光も射すので、良いのではないか。

委員

- ・ 不況の中でも元気のいい企業があるのだから、商店街全体を元気にしようといった、これまでの一律な施策ではなく、元気な商店を見つけ出して、それをどうやって盛り立てるかを考えることや、研究開発に対するサポートなどを行うことが区の役割なのではないかと思う。

座長

- ・ 10年前に中小企業基本法が改正されたときにもあった視点であるが、全体の底上げではなく、伸びているところを更にどう伸ばすか、というその視点は今後提言書をまとめる際も踏まえておきたいと考えている。

委員

- ・ グランドデザインは、 を目指していく、という形になりがちだと思うが、したらどうなるのか、そのゴールの部分が分からないと区民が明確なものをイメージできないと思うので、イメージがすぐに湧くようなものであってほしい。例えば、国際交流について、外国の方が区を訪れて区の商店街などを歩くようになれば、区民が親子で外国の方と交流を持ち、国際的な視点を持つようになる、といった書き方などである。また、特徴に挙げられている区の良いところ、住みやすさなどを守り、伸ばしていくような視点がグランドデザインに盛り込まれていないと思うので、その点も盛り込んでほしい。

4 検討委員会・懇談会の進め方(案)について

座長

- ・ 本日は検討事項が多くあった為に、検討時間があまりとれなかったので、会議の時間は過ぎているが、意見が出し切れていないように思う。意見がまだある方は事務局に個別に提出してもらいたい。方法等は事務局のほうから追って連絡することとする。次回は提言書案をお示しする予定であるが、2月23日の懇談会前にお手元に届くよ

うにするので、事前にお目通しいただき、当日は議論に時間を使いたいと思う。

事務局

- ・ 次回は2月23日、夜6時30分から開催予定である。委員の皆様の本日言い残したご意見を提出していただく用紙などは追って送付する。また、今回の資料を補足するようなアンケート結果が事前に用意できれば、併せてその資料を送付したい。

座長

- ・ 資料4については前回の懇談会の議事録なので、委員の方は目を通し、各自の発言内容などにつき意見のある場合は個別に事務局に修正等の申し出をしてもらいたい。

以上